

曙 光

第80号

令和5年2月1日発行

発行

広島県立障害者
リハビリテーションセンター

あけぼの

〒739-0036
東広島市西条町田口 295-3

TEL (082) 425-1455



年末になると新語大賞なるものが発表されている。年々意味のわからない言葉が増えている気がする。昨年の大賞は「タイパ」で聞いたことはあるが意味がわからなかった。家族に〇〇（恥ずかしいので伏せます）のこと？と聞くと笑われてしまった。そういえば随分前のことだが、自分の若い頃「ネクラ」という新語が使われていて、年配の方から「灯台下暗し」の意味かね？と聞かれてどう反応したのか困った記憶がある。歴史は繰り返さないが、韻を踏むとはこういうことかと一人納得している。意味は知っているけれど

も、使い方がわからない言葉もある。感動的な意味する英語のエモーションナルを語源とする「エモイ」という言葉がある。音楽やファッションなど幅広いものに使われているが、どういう感情の時に使えばよいのかわからないので、自分から口にするのではないと思う。少し前に、子供は親を選べず、生まれた環境によって人生に影響を与えることを玩具自販機に例えた「親ガチャ」という言葉が流行った。その言葉に派生して使われていると思うのだが、新人社員の間で「配属ガチャ」という言葉が使われているというのを報道で知

った。配属先を自分で決められないという意味らしい。希望どおりに物事が進まないときに、こうした表現を使いたい気持ちには理解できるが、現実是不変ならない。組織の中で自分を見失ってはいけない。生まれ持った環境や職場環境を選べないことは実際には多いと思う。さらに言えば、職場には気が合わない人もいると思うし、外部とのトラブルもあるかもしれない。働くことには心の強さが求められる。私たちの職場では、障害によるものであるが、一生懸命に働いていても非難されることが多く、理不尽なことが日常茶飯事の職場で

あり、ストレスを抱えて働いている。しかし、利用者もストレスを抱えていることを常に意識していなければならぬ。今まで仕事をしてきた中で、目の前のことを懸命に行うことでストレスを心の強さに変えられると思ったことはあった。職場にも困った人もいるが、自分に寄り添ってくれる人もいる。温かみのある職場環境は、人に寄り添う力を育む。そんな職場となることを願いたい。



あけぼのの行事では、利用者の方々にも、会場準備や飾り付け、始めと終わりの挨拶などの役割を担っていただいています。また、後援会のご協力により、利用者の皆様に景品や飲み物を提供しています。

行事について



素敵な景品と一緒に記念撮影。

利用者自治会で役割分担などを話し合っています。



新年会

1/26(木)開催

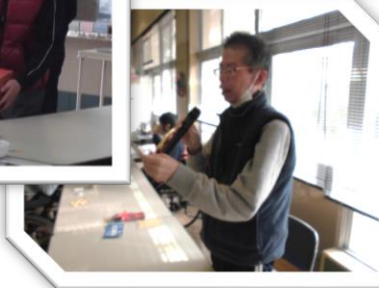
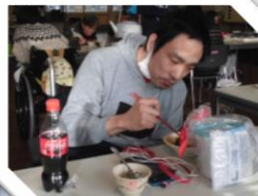
おみくじを引いて運試し。出た運勢に応じて景品を選びました。

大吉の方には、今年の抱負を発表してもらいました。



みそ鍋、キムチ鍋、塩ちゃんこ鍋から好きなものを選んで、おいしくいただきました。当日は寒い日でしたが、体の芯まで温まりました。

それぞれの目標に向かって、今年も一年頑張りましょう！



資源回収

就労を目指す利用者を中心に、資源回収活動を行っています。収集作業、選別作業、納品作業を通して、仕事に必要な体力、他者との協調性などを身につけられるよう支援しています。

段ボール回収

当センター各所から出された段ボールを回収して、倉庫に収めます。大きな段ボールは体でしっかりと支えて運ばなければいけないため、体力が必要です。また、受け渡しを行う際には他者とのコミュニケーションが重要です。

古紙回収・縛り作業

新聞紙や雑誌などが一緒にならないよう分別に注意し、ビニール紐で縛ります。回収先への入退室では、適切な声量や言葉遣いで挨拶することなど、礼節に気を付けながら行っています。

空き缶分別

アルミとスチールに分別します。表示の確認や対象外のものを別にする際に注意が必要です。分別後、袋に入れる際には、他者との協力が必要不可欠です。また、安全かつ衛生的に行えるよう、エプロンと手袋、火ばさみ等の使用を徹底しています。

積み込み・納品作業

利用者同士と職員で協力しながら、回収した資源を軽トラックの荷台に積み込み、近郊のリサイクル業者へ納品に行きます。地域で働く方たちと接点をもつことで、より就労への意欲が高まることが期待されます。

満足度調査

あけぼのでは、利用を終了された皆様に「満足度調査」アンケートを実施しています。その中から、今回は「あけぼのを利用することを決めた最大の理由は？」について集計結果を紹介します。

ニーズ、期待に応えてくれると思った	所在地が都合の良い場所だった	人に勧められた	他に選択肢がなかった
2人	1人	2人	5人

この結果については、あけぼのが、高次脳機能障害のリハビリを中心に、元の暮らしに戻るための準備、自立した生活を送るための準備、仕事に就く前の練習、日常生活の一部介助（入浴支援）など他にはない特色あるサービスを提供していることを示しているものと考えます。あけぼのは自宅からの通所利用も可能で、西条駅からの無料送迎バスもあります。

今後、より多くの方へあけぼのの特色を伝えていけるよう、職員一同尽力しなければと感じました。調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



利用者の動き

令和4年10月1日～令和4年12月31日

《新規利用者》3名（入所1名、通所2名）

【内訳】利用経路：高次脳機能センター外来2，リハセンター高次脳専用病床1

利用事業：生活訓練2（入所1，通所1），就労移行支援1

《利用終了者》3名（入所3名）

【内訳】生活の場：単身1，自宅1，グループホーム（障害）1

活動の場：就労継続支援B型1，その他（地域移行後調整）2

あけぼの利用状況 ※令和4年12月31日現在

	機能訓練	生活訓練	就労移行支援	生活介護
定員	19	15	6	40
在籍数	6	12	1	25

利用のご相談は
随時受け付けて
います。



編集後記

昨年末、世界中で盛り上がったサッカーW杯。カタルでの開催でしたが、現地の日本人サポーターの姿も多く見られ、少しずつコロナ前の日常を取り戻しつつある印象を受けました。5月の連休明けからは、新型コロナウイルスを季節性インフルエンザと同じ「五類」に引き下げることが決定しました。マスク生活が当たり前となつて早三年。今年こそは、目元だけではない利用者の方々の笑顔を、たくさん見られますように。



題字紹介

利用者の地主博之さんが、一画一画丁寧に書いてくださいました。あけぼのには、自宅からJRと送迎バスを利用して通所し、就労を目標に訓練に取り組んでおられます。